

臨床宗教師は心のケアに関わる専門職として地域の支援者の輪に加わります。

被災地で

仮設住宅の自治会や民生委員、保健師、社会福祉士といった方々と



連携し、地域の宗教文化の特性をいかながら傾聴活動を行ないます。地域の宗教者とも連絡をとりながら、身内を亡くされた方などへの宗教的ケアが適切に行き届くようにします。

病院で

病気や死の不安を抱える患者さんやご家族の言葉に耳を傾け、適切な看取りの環境作りを助けます。また患者さんを支える看護スタッフのストレス軽減にも貢献します。

福祉施設・在宅ケアで

日本は超高齢化社会を迎え、施設に暮らすお年寄りも増えています。施設で、在宅で、充実した日々を生きられるようにお手伝いし、気になるお葬式やお墓についての相談にも応じることができます。



戦後の日本では、宗教や死生観について語り、この暗闇に降りていく道しるべを示すことのできる専門家が死の現場からいなくなっていました。人が死に向かい合う現場に医療者とチームを組んで入れる、日本人の宗教性にふさわしい日本型チャプレンのような宗教者が必要であると考えてきました。 医師・岡部健(1950-2012)



各種お問い合わせは
下記までよろしくお願い申し上げます。

北海道東北臨床宗教師会
ht.rinshushikai@gmail.com (事務局)

関東臨床宗教師会
kanto.rinsyo.syukyoshi@gmail.com (事務局)

中部臨床宗教師会
tanaka.amitabha@gmail.com (田中至道)

関西臨床宗教師会
shimidzu_masahiko@yahoo.co.jp (清水正彦)

中国地方臨床宗教師会
bluefrog@gmail.com (柗野統胤)

九州臨床宗教師会
k.rinsyu@gmail.com (事務局)

日本臨床宗教師会
sicj@g-mail.tohoku-university.jp (事務局)

東北大学実践宗教学寄附講座のホームページでは
臨床宗教師についての情報を提供しています。



東北大学実践宗教学寄附講座

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内27-1
022-795-3831(T/F)
E-mail: j-shukyo@g-mail.tohoku-university.jp
HP: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/p-religion/>



臨床宗教師とは



お坊さん、牧師さん、神主さんとお話してみませんか？

「臨床宗教師」は、被災地や医療機関、福祉施設などの公共空間で心のケアを提供する宗教者です。「臨床宗教師」という言葉は、欧米のチャプレンに対応する日本語として考えられました。

布教や伝道を行うのではなく、相手の価値観を尊重しながら、宗教者としての経験をいかして、苦悩や悲嘆を抱える方々に寄り添います。仏教、キリスト教、神道など、さまざまな信仰を持つ宗教者が協力しています。

2011年の東日本大震災を機に、東北大学で養成がはじまり、龍谷大学、鶴見大学、高野山大学、武蔵野大学、種智院大学等の大学機関もこれに取り組んでいます。



臨床宗教師の研修では こんなことを学んでいます。

宗派・宗教を超えた宗教者が集い、対話を通して、心のケアを学びます。

① 「傾聴」「スピリチュアルケア」の能力向上

被災地や医療施設でまず必要なのは、教え導くことではなく、相手の気持ちに寄り添って耳を傾けることです。ロールプレイなどのグループワークを通して傾聴のスキルを身につけます。お一人お一人が大切にしている価値観や信仰心を支え、それに気づき、表現することを助けるのがスピリチュアルケアです。

② 「宗教間対話」「宗教協力」の能力向上

公共空間では宗教の異なる人や信仰を持たない人との対話が前提となります。他(多)宗教の信仰者と触れ合い、儀礼に学ぶことで自分の信仰を自覚し、深めることにもつながります。宗教協力は、布教を目的とせず人々と接することを学ぶ第一歩です。研修受講者が持ち回りで担当する「日常儀礼」、宗派宗教の枠を超えて行なう「追悼巡礼」は自身の信仰を確かめるためにも貴重な体験となります。

③ 宗教者以外の諸機関との連携方法

病院などの公共施設は宗教者のホームグラウンドではありません。アウェイの場所では、適切な手続きを踏まえてTPOに応じた振る舞いが必要です。公的施設の運営者や異業種の専門家との連携から学び、仮設住宅やホスピス、ビハラー病棟などで実習を行ないます。

④ 適切な「宗教的ケア」の方法

さまざまな支援者がいる中で、宗教者ならではのメリットとはなんでしょうか。読経・祈り・お祓いなどの行為や、数珠・ロザリオ・お守り・お札・お地藏さんなどの物品など、それぞれの宗教は心のケアに役立つ工夫や知恵を持っています。これらを相手のニーズにあわせて、公共の場にふさわしい方法で提供することを学びます。



臨床宗教師研修プログラム例(長期型、被災地+看取り): 講義、グループワーク、傾聴実習、他……全体で約三ヶ月のプログラムです。

全体会1(合宿)			実習期間1	全体会2(合宿)			実習期間2	全体会3(合宿)		
7:00 一日目	二日目	三日目	各地に分散して、12時間以上の実習 実習記録／会話記録作成を行います。	7:00 一日目	二日目	各地に分散して、12時間以上の実習 実習記録／会話記録作成を行います。	7:00 一日目	二日目		
8:00 朝食	日常儀礼 G	朝食		8:00 朝食	日常儀礼 G		8:00 朝食	日常儀礼 G		
9:00 傾聴 G	地域と文化 L	社会実装 L		9:00 追悼巡礼 F	追悼巡礼 F		9:00 追悼巡礼 F	追悼巡礼 F		
10:00 集合930石巻駅前 オリエンテーション	屋敷移動	実習先説明		10:00 集合930南仙台駅前 日常儀礼 G	閉上地区 会話記録 G		10:00 集合930南仙台駅前 日常儀礼 G	日常儀礼 G		
11:00 自己紹介・参加動機	移動	ロールプレイ G		11:00 公共性 L			11:00 公共性 L	宗教間対話 L		
12:00 理念 L	実習 F			12:00 実習振り返り G			12:00 実習振り返り G	実習振り返り G		
13:00 屋敷休憩	カフェデモンク	屋敷・清掃休憩		13:00 実習振り返り G			13:00 実習振り返り G	清掃東北大へ(文学部2F大会議室)		
14:00 倫理 L	石巻市内仮設住宅※2	ロールプレイ G		14:00 精神保健 L			14:00 精神保健 L	昼食		
15:00 追悼巡礼 F		スピリチュアルケア L		15:00 グリーフケア L	宗教的ケア L		15:00 グリーフケア L	実践宗教学		
16:00 石巻市浜地区		研修振り返り G		16:00 研修振り返り G			16:00 研修振り返り G	研修振り返り G		
17:00 入浴	入浴	日常儀礼 G		17:00 入浴			17:00 入浴	実習振り返り G		
18:00 夕食	夕食	解散		18:00 入浴	解散		18:00 入浴	修了式		
19:00 休憩	実習振り返り G			19:00 夕食			19:00 夕食	解散		
20:00 カフェデモンク L	会話記録の作成法			20:00 民間信仰論 L			20:00 民間信仰論 L	人権擁護 L		
21:00 日常儀礼 G	日常儀礼 G			21:00 日常儀礼 G			21:00 日常儀礼 G	日常儀礼 G		
								夕食・懇親会		



主な実習先

- 岡部医院 (宮城県名取市)
- ふくしま在宅緩和ケアクリニック (福島市)
- ※東北大学
- 光ヶ丘スベルマン病院ホスピス病棟 (仙台市)
- 2015年度の例
- ホームホスピスにじいるのいえ (仙台市)
- 佼成病院ビハラー病棟 (東京都杉並区)
- 上尾中央総合病院緩和ケア病棟 (埼玉県上尾市)
- 長岡西病院ビハラー病棟 (新潟県長岡市)

- ささえ愛よろずクリニック (新潟市)
- 小笠原内科 (岐阜市)
- 沼口医院 (岐阜県大垣市)
- 松阪市民病院緩和ケア病棟 (三重県松阪市)
- 西栄寺お寺の介護はいにこぼん (大阪市)
- 特別養護老人ホームひかりの園 (熊本県上天草市)
- 傾聴移動喫茶カフェ・デ・モンク (宮城県内)
- 仮設住宅訪問 (福島県内)

講義科目例

臨床宗教師の倫理	宗教間対話	民間信仰論	在宅緩和ケア	精神保健と医療
スピリチュアルケア	宗教的ケア	グリーフケア	放射能の影響	地域と文化
臨床宗教師の社会実装	公共性の確保	会話記録の作成方法	人権擁護	実践宗教学



宗教、宗派超え心のケア

「病院などで患者らの心のケアを行う」臨床宗教師。今年6日、札幌市内で開かれた第9回北海道在宅医療推進フォーラムで、僧侶で東北大学病院緩和医療部の認定臨床宗教師、金田諱晃さん(29)＝宮城県栗原市＝が「死の現場から生を見つめる」と題して講演した。一般にはまだなじみの薄い臨床宗教師としての体験などを語った講演を紹介する。(編集委員 福田淳)

臨床宗教師・金田さん札幌で講演

臨床宗教師が誕生したのは、2011年の東日本大震災が契機となりました。当時、私の住む(内陸の)栗原市には被災地から多くのご遺体が運ばれ茶室に付されました。心が凍り付いたかのような表情で手を合わせると遺族、声を絞り出すように誦経をする僧侶の姿に、当時大学生だった私は苦悩の現実を突きつけられました。震災に無力感を味わったのは宗教者も例外ではありません。被災地では宗教宗派を超え宗教者が弔いをする場に行きました。人々の心のケアも重要な問題でした。さまざまな宗教者が被災地に赴き、布教・伝道を目的とせず人々の話に耳を傾ける「カフェ・デ・モンク」という移動式の喫

茶の活動が行われました。こうした動きに関心を示したのが、宮城県名取市の岡部健医師です。在宅で多くのみどりを経験し、「医学は患者を延命する方向で希望を与えようとはできるが、不条理な死を見つめるのは宗教的な伝統、地域に密着した死生観に耳を傾けることが大切だ」と述べていました。医療との協働の可能性を思いだし、臨床宗教師の養成に関わるようになります。岡部先生は震災の翌年、がんで亡くなりました。人が亡くなるのは暗闇に落ちていくような感覚で、その暗闇の道しるべがないのに気づいたと美感を語っており、私も日々、「暗闇の道しるべ」という言葉を考え続けています。

震災をきっかけに誕生／死の現場で医療と協働

私は自分のお寺で毎年開催される子ども向けの「寺子屋(舎)宿」で、命の尊さを伝える「いのちの授業」をしています。それを翌日に控えたある日、お会いした患者さんに、子どもたちに伝えたい言葉をたずねました。他人に迷惑を掛けてきた後悔を語るその方は、お医者さん、看護師さんらの助けに深く感謝しており「人は人に助けられて生きている。そう伝えてください」と語ってくれました。人がどのように亡くなっていくか、つらい状況がある方が伝えたい言葉があるとの話に、子どもたちの目は真剣でした。それを病床に報告した後、患者さんは息を引き取られました。後で寺子屋に参加した小学生の女の子が、生と死について学んだことを詩に書いてくれました。「人は死ぬと生き返らない。でも生きていた間にしたことが死んだ後も残るのなら、私は今を悔いのないよう生きていく。精いっぱい、力強く」という内容です。私はこの確信しました。あの患者さんの苦しみの意味はここにあった。死の現場での体験や教訓は、生につなげなければならない。



臨床宗教師 被災地や寺院、病院、福祉施設などで死期が迫った人や家族らに宗教、宗派を問わず心の痛みやケアする仏教キリスト教神道などの宗教者。傾聴を中心とし、家族や医師にも話しにくい死への不安などの相談役となる。欧米の病院などで心のケアをする宗教者チャペレンがモデルで布教、伝道を目的としない。養成は東北大学で始まり、他の大学にも広がっている。2014年に北海道東北臨床宗教師会が発足しており、会員は道内の7人を始め60人。



臨床宗教師としての体験や思いを語る金田諱晃さん
＝0日、札幌市医師会館(中央区)

かねた・たいこう 宮城県栗原市出身で同市の通大寺副住職。臨床宗教師を養成する東北大学の実践宗教学寄付講座と、同大学大学院博士課程前期2年を修了。2014年から東北大学病院の緩和ケア病棟で臨床宗教師として活動している。

北海道新聞 平成30年10月22日 朝刊
カフェデモンクの創始者、金田諱應師のお弟子さんの講演の記事です。
臨床布教師の求めているところが、良く解る内容です。